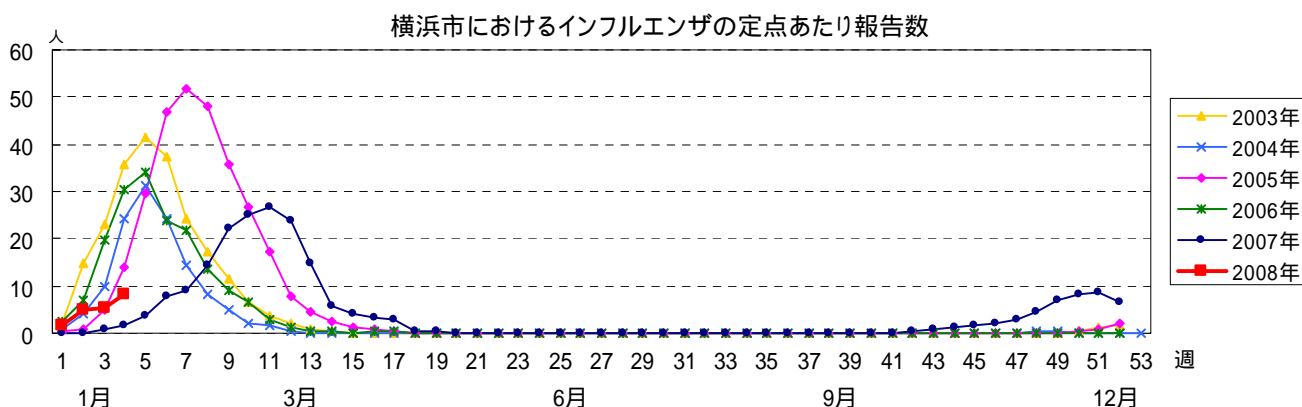


横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その 12)

1. 感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生報告状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

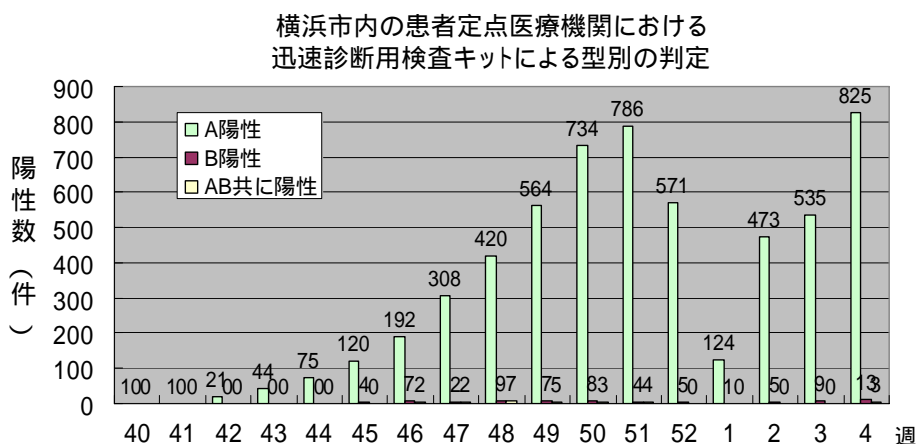
年末年始にかけて減少しましたが、第 2 週以降再び増加し、第 4 週(1/21～1/27)の患者定点医療機関からの患者報告数は 1018 人、定点あたり報告数は 8.21 となっています。区別では、中区以外の 17 区で流行開始の目安となる「1.0」を超えており、都筑(17.2)、瀬谷(15.0)、栄(14.2)、磯子(12.7)、泉(11.0)、金沢(10.4)、戸塚(10.3)、港南(10.3)の 8 区で注意報レベルの「10」を超えています。例年、1 月末以降に流行のピークを迎えていることから、今後の動向に注意が必要です。



また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力でご報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定をグラフに示しました。第 4 週までの累計で、A 陽性 5794、B 陽性 74、AB 共に陽性 26 の報告がありました。

全国でも、年末年始は減少しましたが、2008 年第 2 週以降は増加に転じ、第 4 週の定点あたり患者報告数は 15.30 と注意報レベルの「10」を超えています。

都道府県別では、全 47 都道府県で流行開始の目安となる「1.0」を超えており、40 府県で注意報レベルの「10」を超えています。さらにそのうち愛知県、三重県、高知県の 3 県で警報レベルの「30」を超えています。



全国および神奈川県、東京都の定点あたり患者報告数(総報告数÷報告のあった定点医療機関数)

	第 52 週 (12/24～12/30)	第 1 週 (12/31～1/6)	第 2 週 (1/7～1/13)	第 3 週 (1/14～1/20)	第 4 週 (1/21～1/27)
全国	6.18	3.17	6.40	9.35	15.30
東京都	7.71	2.18	5.32	5.52	8.59
神奈川県	7.57	2.42	6.21	7.13	11.22
横浜市	6.49	1.48	4.78	5.33	8.21
川崎市	7.72	1.66	4.69	5.65	8.74
県域(横浜、川崎除く)	8.40	3.38	8.07	9.32	14.88

(2) 学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等の報告は、例年より早く2007年11月6日が初発で、12月7日以降はありませんでした。しかし、先週の栄区に引き続いて今週も港南区、青葉区、戸塚区から学級閉鎖等の報告があり、累計では、幼稚園8校、小学校4校の計12施設になりました。区別では、港南(3施設)、旭(2施設)、緑(2施設)、港北(1施設)、青葉(1施設)、都筑(1施設)、戸塚(1施設)、栄(1施設)となっています。

全国状況については、<http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

2. 感染症発生動向調査等におけるウイルス検出状況

全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加しつつあります。

インフルエンザワクチンについて(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/influvaccine1.htm)

病原体定点から提出された検体(63株)ではタミフル耐性は認められませんでした。学校等の集団かぜの検体では1例がタミフル耐性でした(検査前にタミフルの服用歴があったことがその後の調査で判明しました)。

(1) 病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス検出状況

月集計および週数	定点数	検体数	インフルエンザ検出状況					
			A型				B型	
			H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
			分離	PCR*	分離	PCR*		
2007年10~12月集計(第43週~第52週)	36	98	42	3				
2008年第1週~第2週	5	14	9					
2008年第3週	5	13	8					
2008年第4週	6	16	6					
2008年第5週	5	12	9					

*: ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

(2) 学校等における集団かぜからのウイルス検出状況

発生週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			遺伝子*		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2007年第45週~第49週 (11/5~12/9)	6	3小学校 3幼稚園	16(1)	11(1)			(5)		
2008年第4週(1/21~1/27)	1	1幼稚園	5	2			1		
2008年第5週(1/28~2/3)	1	1小学校	5	1			1		

検体数、検出数の()内は保護者で内数です。

*: ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

()内の数字は、NA遺伝子(ノイラミニダーゼ領域の遺伝子)でN1のみ検出していることから推定しています。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2008年2月1日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離状況は、AH1型1297例、AH3型101例、B型23例です。

詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

その他の感染症に関する情報は http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/ をご覧ください。